

# 果 樹

## 〇りんご

### 1 見直し摘果

仕上げ摘果をひととおり実施した後、見直し摘果を行います。7月中旬頃から来年の花芽分化が始まるので、仕上げ摘果の目安は満開後 60 日以内となります。さび果や肥大不良果、変形果、子花果や「シナノゴールド」に多い遅れ花果なども摘果し、樹勢に見合った適正な着果量にします。

また、果台が長い（2cm以上）と収穫期に熟さない果実（青み果）となりやすいので、果台の長さをよく確認して下さい。

凍霜害などで着果量が少ない園地では、新梢伸長を抑える意味で、

本来不良果で落とす果実も残し、樹勢に見合った着果量を確保します。

「シナノゴールド」は節間長が短いため着果量が多めに見えます。着果量が少なくなりすぎると肥大がよくなり、ビターピットが発生しやすくなりますので注意しましょう。逆に着果過多にすると着色・成熟が遅れ、糖度も低くなりますので、着果過多は注意しましょう。

なお、日焼けした果実は、除去すると果実の重みが無くなるため、枝が持ち上がり、それまで陰になっていた果実に直射日光が当たるようになり日焼けを誘発することがあります。



（りんごの果台）



（左：青み果 右：正常果）

### 2 新梢管理と支柱立て

徒長枝は樹冠内部への日光の透過や薬剤の到達を妨げる一方で、日焼け防止や養水分を引っばる働きもしてくれます。普通樹では、日焼け防止も兼ね5～6月に主枝を中心に30～40cm間隔で残します。なお、日焼け防止を行う枝葉が無い部位は、白塗剤、わら、段ボール等で日焼けを防ぎます。

支柱立ては梅雨明け前に見直しをします。梅雨明け後に見直す場合は果実の日焼けに注意します。

### 3 シンクイムシ類、ハダニ類に注意

シンクイムシ類は気温が高い場合には、防除間隔が空きすぎないように注意が必要です。また梅雨明け後、高温乾燥になるとナミハダニが増加してきます。殺ダニ剤の散布に当たっては、事前に枝吊りや徒長枝切り、草刈りを行い、散布ムラがないように防除しましょう。

## 〇ぶどう

### 1 無核栽培の新梢管理

短梢栽培では新梢の伸長が旺盛で、副梢が発生しやすいため、棚面が一気に暗くなってしまいます。新梢が交差ししないよう、巻きヅルを除去しながら棚付けしましょう。先端の副梢はそのまま真っ直ぐに誘引し、その他の副梢は1～2枚残して摘心します。孫枝が発生したら基部から切除します(図1)。

新梢管理を怠ると、無核栽培では果粒の肥大不足や着色不良等、品質低下を招きます。ナガノパー

プルでは裂果を助長する場合もあるので、新梢管理は適期に、きちんと行ってください。

摘心の時期は品種によって多少異なりますが、いずれの品種も、果粒軟化期直前に強い摘心をしてしまうと縮果症が発生するので、注意して下さい。(表1参照)

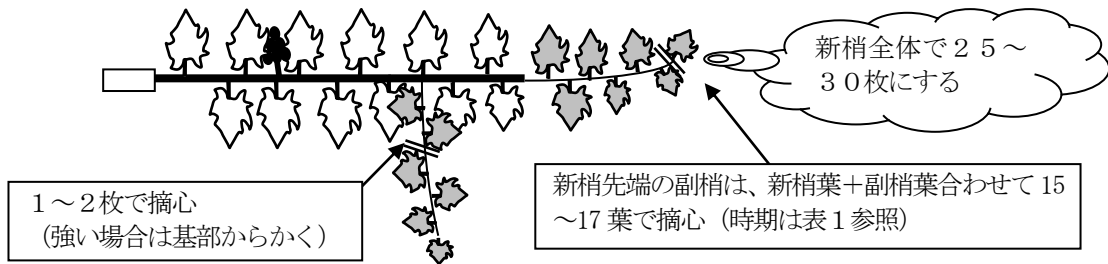


図1 新梢管理の方法 (基本)

表1 先端副梢の摘心方法 (短梢栽培)

品 種	処 理 方 法
ピオーネ	満開 35~40 日後頃 (7月下旬頃の果粒軟化期前) に主枝間の中央部で一律摘心
ナガノパープル	満開 20~35 日後頃に新梢葉と先端副梢葉をあわせて 15~17 枚を目安に摘心
シャインマスカット	7月中旬の果粒軟化期前 (満開 30 日頃) までに新梢葉と先端副梢葉をあわせて 15~17 前を目安に摘心 (果粒軟化直前の強い摘心は縮果症の発生を助長)
クイーンルージュ®	満開 30 日後頃までに新梢葉と先端副梢葉あわせて 15~17 枚を目安に摘心

## 2 着果量

全ての新梢に着房させると、着果過多となり着色が劣るだけでなく、食味も悪くなります。適正着果量は、房重にもよりますが、4新梢に3房~3新梢に2房です。短い新梢に着房している房や房型が悪い房を優先的に摘房します。

## 3 袋掛け・笠かけ

仕上げ摘粒が終わり次第、できるだけ早く袋をかけましょう。昨年、晩腐病が発生した園地では、発生が多かった場所から早めに袋かけを行います。

梅雨が明ける前に袋掛けが終われば問題ありませんが、梅雨明け直後に袋掛けを行うと果実の日焼けを助長します。日焼けが心配な場合は、果粒軟化期以降に袋を掛け、房の肩が袋に触れない程度の空間をあけてください。

袋掛けにあわせて笠かけも行いましょう。



## ○シャインマスカットの摘粒

いまだに大房傾向のほ場が見られます。今年もより一層、適房生産に努めて下さい。

### 【シャインマスカットの軸長と粒数の基準】

軸長 7~8cm程度  
粒数 35~40粒



## 〇もも

### 1 収穫前管理

川中島地区の「川中島白桃」の満開は4月9日で昨年よりも10日早い。肥大は良く、着果はおおむね確保されています。

もも、ネクタリンの収穫が始まります。収穫前管理のポイントは次のとおりです。

#### (1) 除袋

表を参考に果実を確認し、品種別に除袋時期を設定してください。

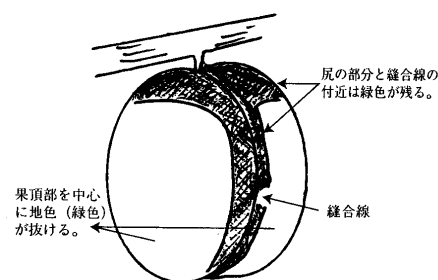
着色の難易	品種名	除袋時期
着色容易な品種	川中島白鳳、アームキング	収穫 4～7 日前
着色中位な品種	白鳳、川中島白桃、なつっこ、水野ネクタリン	収穫 7～10 日前
着色困難な品種	愛知白桃、白桃、志賀白桃	収穫 10～14 日前

なお、果実の状態から見た除袋時期は、次のとおりです。

- ① 果実全体の地色（緑色）が抜けて白色になる。
- ② 果実の尻部分と縫合線付近に、わずかに緑色が残っている。

#### 【ためし除袋】

1 樹あたり 5ヶ所程度、樹冠上部の果実の除袋をして適期を把握する。



果実の地色の抜けによる除袋時期の目安

#### (2) 着色管理

葉摘みは、有袋栽培では除袋後、無袋栽培では着色が始まった頃から果実に密着している葉や日射を遮っている果実周辺の2～3枚の葉を摘みます。多くても5～6枚にとどめましょう。

#### (3) 支柱立て、枝つり

主枝、亜主枝、側枝など垂れ下がってしまう部分には支柱を立てるか枝吊りを行いましょう。

#### (4) 新梢管理

徒長枝等があると樹幹内部まで光が入らず、果実の着色や糖度の上昇を妨げるほか、樹形の乱れの原因にもなります。誘引、捻枝や場合によっては切除を行い、光が樹冠内部まで入るようにします。

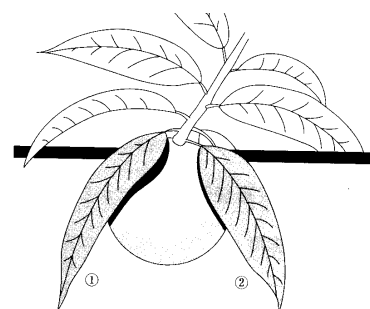


図2 摘葉  
果実の周辺の葉①②を摘みとる（農業技術大系より）

## (5) 反射フィルム

着色がひととおり進んだら、過着色や微裂果を防ぐためにも反射フィルムは除去します。特に着色しやすい品種は注意しましょう。

## 【反射フィルムの使用目安】

着色の難易	品種名	被覆時期	除去時期
着色しやすい	日川白鳳、あかつき、長沢白鳳など	収穫始め頃	晴天が続く場合は被覆後3～4日で着色するため除去する。過度の着色は控え鮮紅色に仕上げる。
着色中程度	白鳳など	収穫始めの4～5日前	果頂部から赤道部にかけて着色し、収穫が始まったら除去する。
着色しにくい	八幡白鳳	収穫始めの5～7日前	
有袋栽培	裂果する品種 着色しにくい品種	除袋後	過度の被覆は微裂果や温度上昇による軟化を早める原因となるため注意する。

## 【参考】令和5年度 長野県果樹試験場におけるもも4品種の収穫始め予測（6月6日）

品種	満開日	満開後1～50日の平均気温	満開から収穫始めまでの日数	収穫始め(予測日)	平年比(実績)	昨年比(実績)
白鳳	4月9日	14.5℃	108日	7月26日	-6	-13
あかつき	4月7日	14.0℃	108日	7月24日	-8	-16
なつっこ	4月7日	14.0℃	119日	8月4日	-6	-8
川中島白桃	4月13日	14.9℃	126日	8月17日	-7	-12

## ○ニホンナシ

ニホンナシの結実は、「南水」で園地により着果量が少ない状況です。

## (1) 南水の新梢管理について

- ア 盃状部の本来、芽かきをする芽でありながら徒長枝となってしまったものは、7月の内であれば徒長枝の太さを抑制することができるので誘引します。7月以降でも徒長枝は誘引して太らせないようにし、背面の極端に強いもの、混んでいる部分を間引く程度としましょう。
- イ 主枝先端部は、斜め支柱に沿って棚面か40cm程度上げて固定します。
- ウ 凍霜害により着果が極端に少ない樹では、短果枝から新梢が旺盛に伸びることを防ぐため、骨格枝の先端部や極端に着果の少ない側枝の先端部は枝の誘引ひもをはずして枝を立ち上げる。また新梢発生が旺盛となるので側枝の更新のため、伸長が停止した新梢を斜めに誘引し、側枝更新に向けた準備を行う。

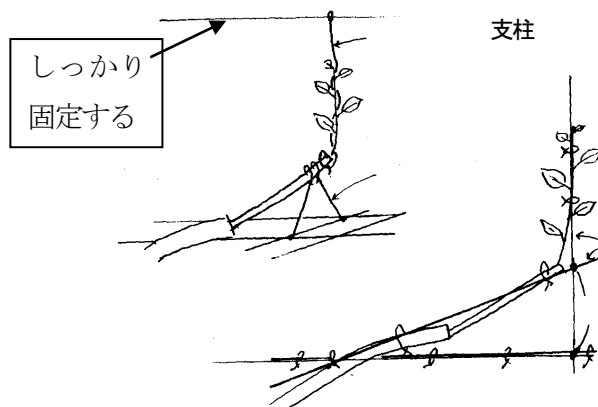


図3 主枝先端は風で振れないように、支柱等で固定する